



2. テーマ2「将来の庁舎の在り方」について

2-1 増改築しやすいさ

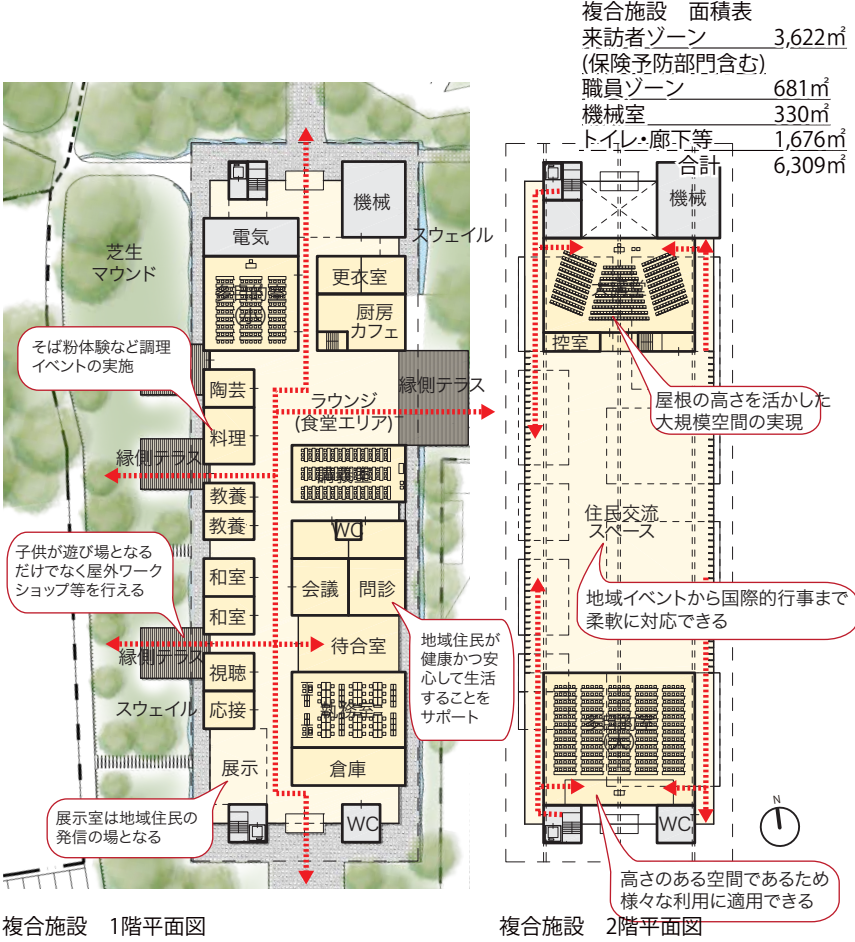
将来の少子高齢化によって、軽井沢では別荘住民や観光客の増加が予想されます。様々な時代の変化に対応できるように、新庁舎の大屋根下は改築しやすいシステムとなっています。そして近い将来の車の自動運転技術の普及により、駐車場の面積が削減又は離れた場所が使えることにより、リニアで単純な架構の本建築は容易に左右に増築することも可能です。

2-2 世界的リゾート会議都市へ

軽井沢の2016年G7サミット誘致活動は残念ながら伊勢志摩に敗れましたが、軽井沢は十分にサミット開催地となりえるポテンシャルがあります。その為庁舎と複合施設は世界に認知される顔としての建築となり、複合施設は国際会議を催しできる品格と機能を持つ、次のサミット誘致を視野に入れた、様々な国際会議が開催できる街の中心となる施設とします。



複合施設 外観パース



3. テーマ3「景観形成」について

3-1 グリーンコリドーの延伸

本敷地は湯川—離山間に位置しており、敷地全体を潜在植生による雑木林として復活させることで、湯川ふるさと公園の野鳥の森から離山へのグリーンコリドーの連続性を紡いでいきます。湯川河畔林のハルニレ群集から離山のクリーミズナラ群落へと遷移を考慮して、どんぐりなど実のなる樹木を優先した多様性のある樹種構成とします。グリーンインフラを兼ねたスウェイルや水場などで積極的に昆虫や鳥などの生物の移動を促します。県の準絶滅危惧種であるムササビの営巣エリアにも寄与し、生存確認されている星野エリアから誘導可能なように滑空可能な樹木を飛翔距離を踏まえて配置します。雑木林には巣箱を設置してこれらの生物を観察・確認できるようにします。



中軽井沢広域ゾーニング図

3-2 グレーインフラからグリーンインフラへ

既存庁舎は敷地全体が舗装で覆われており、従来のグレーインフラによる土木的な考え方で整備されています。本計画では従来の姿である雑木林の再生をコンセプトにします。雨水の流速を抑えながらスウェイルによって地中還元し、雨水の流出抑制も兼ねて生物多様性の場になるグリーンインフラストラクチャーとして活用します。敷地内の雨水は貯留することで水景用にも利用し、沓掛水路も一部引き込んでそのまま戻すなど、効果的に循環させることで常時水の気配が感じられる優しい空間とします。舗装面にも保水排水性のある素材を利用し、夏場は雨水を蒸発させて、周囲よりも気温を下げた来訪者に快適な居場所となります。

3-3 建物内外一体となったランドスケープ計画

雑木林と建築との間には中間領域を設けて、建築内部から連続して人々のエンガワとなる居場所を雑木林の辺縁部につくり出します。建築プログラムに呼応して使いやすい場所を提供し、来訪者が自由に選ぶことのできる場として様々な家具を配置します。建築から外部にアクセスするルートから雑木林を回遊できる散策路を設けてスウェイル沿いにも歩けるようにし、隣接する軽井沢病院や沓掛水路の親水広場側に接続できるようにします。雑木林はマウンド状にして、掘削土は場内で活用します。



緑側テラスと雑木林



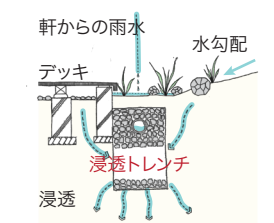
雑木林



芝生マウンド



スウェイル



スウェイル断面詳細